

青森県都市計画公聴会記録

(鱒ヶ沢都市計画道路の変更)

平成29年10月23日(月)

青森県都市計画公聴会記録

【議長】

それでは公聴会を開催させていただきます。

今回、公述していただきます案件は、鱒ヶ沢都市計画道路、1・5・1号つがる鱒ヶ沢線及び3・4・1号鳴戸大和田線に関する都市計画の変更案についてです。

本日の公述人は1名でございます。

それでは、公述を開始する前に何点か留意事項をご説明します。

1. 公述は、当該変更案に関する発言として下さい。
2. 公聴会は、皆様のご意見を伺うものですので、この場で質疑は行いません。

それでは、公述を始めて下さい。

【公述人】

まず、都市計画に関する説明会のお知らせが来た時点で、公聴会の開催というのが載っていたんです。公述の申し出がない場合は中止ということなので。公述は何かというと、この地図を見ると、1・5・1号つがる鱒ヶ沢線ということで、津軽自動車道の概要から言いたいと思います。津軽自動車道というのは鱒ヶ沢からつがるを通過して五所川原まで、つがる総合病院への救急車も通る、病院そのものに通るために。鱒ヶ沢には総合病院がありますけれども、冬場になるとほとんど危ないわけです。救急車に限らず自家用車の場合でも、冬の間はとても危ないわけです。ここの地吹雪は他の地区と違って、日本海側から吹くのですけれども、まったく違うんです。弘前の地区の人が来て必ず言うのが、この道路を通過している地吹雪というのは、下から舞上がってくるんですね。ここの地元の人にしかわからないのです。そして、車の運転をうまくとらないといけないんですよ。路線バスの人はいまいますけども、ここら辺の人達はみんなどこへ行くにも自家用車で動いているんです。仕事するにも何でも。仕事しているひとも鱒ヶ沢だけでなくつがる市の人もこの経路を使うんですよ。道路を使う場合に、地吹雪が吹く場所が決まっています。除雪してもすぐに吹きだまりになって、バスなどがスタックして動けなくなってしまうというのが、津軽地区の地吹雪なんですよ。

だからその中で、病院中心の社会を作ろうとする場合に、鱒ヶ沢の病院だと能力がない、つがる総合病院へ向かわなければならぬ時に。救急車で行こうとしても、救急車自体も危ないということになるんですね。その中で当然ここをやらなくてはならないというときに、県の方でアンケートをとっているんですよ。その中で津軽自動車道では、この都市計画の中での申出はこの鱒ヶ沢の区間だけということなので、鱒ヶ沢都市計画道路の中となるんですね。問題点は何かとい

うと、全体としての鱒ヶ沢地区がここで、病院に行くための道路が全然だめだということで、そのためにうちら必死に頑張っ、国とか県に要請しているんですけども、ここら辺のことを知っているのは地元の間しかいないんですよ。青森に住んでいる人も弘前に住んでいる人にもわからないし、うちら地元の鱒ヶ沢とかつがる市のここらの人間にしかわからないことなんですよ。

2007年に鱒ヶ沢道路の事業化となっていますよね。2007年から今までの間に2011年に地震がありました。東日本大震災の時にそれでもここをやらうとしていたんですよ。

交通網は一応なっているんですが、物資の供給がほとんどなっていない。私はジャスコに行くものですから、物資の供給は秋田の方からガソリンなど流れてきたり、供給がくるという形があるんですけども、それだとしても地震があつて、地震があつたときは民進党の時代です。2007年はここからはじまっているんですけども、1989年からだということは自民党になります。そして2007年に事業化されて2014年11月3日に五所川原西バイパス、五所川原北IC、つがる柏IC開通となりました。開通したのはその辺を反映したのですけれども、ところがそこはいつも渋滞もするし、出口がまったくうまくないので今の様に渋滞しているわけです。2016年7月30日に国道101号鱒ヶ沢ICが開通となりました。このとき自民党、たしか国交大臣が来てるんですよ。なぜかここ（鱒ヶ沢道路）だけが急に進められました。この前までずっとこちら（浪岡～柏）の方をやっている、うちらとしてはここ（柏～浮田）があつてのそれ

（鱒ヶ沢道路）ができると思ったのが、こう進んできて出来たんですけど、これを見ると鱒ヶ沢ICここから先何もないんです。それで問題は、浪岡～つがる柏ICで、これが目的が自動車道路なんですよ。ICですので高速道路です。この時の浪岡つがる柏、要するにジャスコの近くのあたりに、最高時速70km/h、70km/hで来れるんですよ。ここで1・5・1号の問題点ということで、3・4・1号鳴戸大和田線とここのICの出口をわざわざこの3・4・1号鳴戸大和田線と直線で接続するように作っているんですよ。出口を一般道をわざわざ変えて直線にしちゃったんですよ。いまの状態での柏の出口で70km/hくらい書いてあるんですね。ここから出口ははっきり言って全くなってないですね。信号がついているだけで、信号が青だったら、まっすぐですよ、一般道なのに。ここからの制限速度70km/hだとすると、70km/hは危なすぎます。ここから一般道なのに。どう考えてもここから70km/hでとばして来たものが突然止まれないです。どう考えても70km/hでは止まれない。高速をずっと来て、この道路は大和田まで来て、深浦まで行っちゃうんですよ。そこで止まれるかといったら止まれない構造だし、自動車専用道路であればここから突っ込んで来るんですよ。高速出口に対して3・4・1号鳴戸大和田線の設計をしている状態のものを放置しているということです。将来明らかに事故が起きる。どう考えても人の感覚とすれば、ここまでスピードを出して来て、ここで急に減速するという仕組みになってない

んですよ。最初から自動車道路となっている状態なので、ここで事故が起こります。ここから先は坂があって、下にスーパーがあって、私たちの生活道路なんですよ。設計している人は、正確なところはわからないです。ここら辺の状態がわからないということで作っちゃうと、これを直すというのは大変な話なんですよ。あそこまで作っちゃうと。それをうまくやんないということには。70km/hで来た、今は70km/h、ここからコントロールしてきてるはずなんです。完全に70km/hの高速道路となっている中、ICですよ、70km/hで来たらここで止まるわけがないです。信号が青だったら突っ切りますよ。まっすぐ来て誰も一般道路だとわからないですよ。ここに対して質疑応答がないので、もう少しこのところは。ここでもう作ってしまったのですから。事実もう既に事故が起こっているんですよ。ここからは一般道だということを示さないと。70km/hを制限するというのを何も考えてないですよ。そうじゃないと事故は起きますよ。はっきり言って設計する側はそこまで考えてないです。全体的には他にもあるんですけども、この部分だけでいうと、70km/hできたものをどうやって防ぐか、どう考えても（スピードを）落とさない、自動車しか走らないから。だから設計する人の考え方が間違っている、最初からずれているというか、わかっていない。結局、車優先の考えしかない。もう少し言えば、道路の作り方は、地震があった後の道路の作り方と同じなんです。地震があった道路というのは、全部土で埋めてしまって、波が来ないようにするのですけども、それ（その設計）をこっちに持ってきているんですよ。だからここら辺の農作業をしている人達が大変なんです。埋まってしまえば、自分の田んぼが分かれてしまえば、遠回りしなくちゃいけないし、例えば他の地区でも、その地区用の設計がされてないし、用地買収の時はいいんですけども、出来てしまえば、農作業をする人の配慮がない。

南浮田の地区というのは、わさおの先駆けのどこなんです。わさおというのは2011年に映画をやって、鱈ヶ沢のフィルムコミッションとかいろいろやってですよ、地震があったために、ぼしゃったんですよ。ここでわさおの写真とか景観とかやってもこの道路のために計画中止ですよ。今必死にわさおのことをやって、今鱈ヶ沢はわさおしかないので、やろうとしているものを、映画があれば、撮影場所を大事にして、景観も大事にして、それを起点にして地域興しをやろうとしているのに、計画が進んでしまったんです。作り方も地震があった後の作り方、ただ単に、この問題点は、南浮田の地区の問題点は、田んぼだから沈むんですよ、そのため苦労するというのは当たり前です。ここら辺の人間は知っているんですよ。田んぼを埋めれば、沈むというのは、常識だし。用地買収の時には、その点わかっているんですよ、知っている人間は。だってここら辺は湿地だし。

出来てしまったものに対してはしかたないですね。出来てしまったものにたいして何とも云々は言いたくはないですけども、これから先出来たとしても、こ

このICだけ出口だけを何とかして欲しい。出口だけ何とかしないと事故が起こります。そのことを言いたい。鯉ヶ沢都市計画道路1・5・1号の中ではとなっているのですが、3・4・1号鳴戸大和田線によってここだけ作っているんですね、ということでこの出口を何とかしてもらいたいということ言いたいです。以上です。

【議長】

はい、ありがとうございました。今日の公述人は1人ですので以上をもって、公聴会を終了いたします。本日は、ご意見をありがとうございました。

この記録が、公聴会の内容と相違ないものと認め、署名押印する。

議長

下村 誠



印